

環境報告書 2019

2019/4/1-2020/3/31





目次

- ▶ I. トップメッセージ
- ▶ II. 環境理念・環境方針
- ▶ III. 会社概要・事業概要
- ▶ IV. 工場周辺の環境に対する取り組み
 - ・ばい煙測定　・騒音、振動調査　・臭気測定　・排水浄化の取り組み
- ▶ V. 地球温暖化防止への取り組み
 - ・工場での取り組み　・事業所での取り組み　・営業活動での取り組み
- ▶ VI. 環境コミュニケーション・CSR活動報告
- ▶ VII. 工場における物質とエネルギーの流れ
- ▶ VIII. 環境目標および実績
- ▶ IX. その他環境負荷データの推移
- ▶ X. 当社全事業所のエネルギー使用量
- ▶ XI. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

編集方針

- ▶ この報告書は、当社の環境に配慮した姿勢と、環境負荷の低減を図る活動の進捗状況を確認するとともに、ステークホルダーの皆さまにお知らせすることを目的とし、作成しました。
- ▶ 本環境報告書の対象期間は2019年度(2019年4月1日から2020年3月31日)です。
- ▶ 記載対象範囲は当社全事業所ですが、「工場における物質とエネルギーの流れ」および「環境目標および実績」については当社の全工場です。
- ▶ 編集にあたりましては、環境省発行の「環境報告ガイドライン」(2012年度版)を参考に作成しました。
- ▶ 本環境報告書の取りまとめは、製造部 環境対策グループおよび経営企画部が担当しました。

企業理念

焼津水産化学工業グループは、
天然素材の持つ無限の可能性を追求し、
“おいしさと健康”を通して
豊かな生活に貢献します。

トップメッセージ

ご報告に先立ちまして、昨年判明した当社製品の一部における不正表示につきまして、株主の皆さまおよび関係者の皆さまに多大なるご迷惑とご心配をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。焼津水産化学工業グループの品質保証体制の見直しとコンプライアンス意識の改革を進め、早期の信頼回復に全力を挙げて参ります。

当社では、2022年3月までの3カ年中期経営計画「Create Next YSK」に基づき、「差別化とフィールド拡大による成長」、「海外事業のステージアップ」、「新規事業育成」の3つを柱として経営資源を集中投入し、成長戦略を描いていく目標を掲げ、企業収益の発展に取り組んでおります。また、それらと同様に、環境・社会・ガバナンス（ESG）の取り組みも重要だと捉えております。

当社が天然素材を原料として製造し販売する製品は、人々の基本的な要求である“おいしさと健康”に正面から向き合った結果生まれたものです。今後も天然素材の無限の可能性を追求し、価値あるものづくりを続け、人々の豊かな生活に貢献するためには、社員一人一人が地球の恵みに感謝し、持続的な発展のための意識を強く持って活動していくことが求められます。

温暖化をはじめとする地球環境の変化は、天然素材を事業のベースに置いている当社にとって、強く意識しなければならない現象であります。事業活動に伴うさまざまな環境への負荷を真剣に受け止め、全社一丸となって環境教育、省エネルギー・省資源、廃棄物の削減、リサイクルの推進活動に努めてまいります。

2019年度は、不正表示対応に伴う製品生産量が増加したため、CO2排出量、排水量、エネルギー使用量が増加しました。2019年度に設定しました環境目標、「CO2排出量原単位 前年比1%削減」は達成できませんでしたが、「廃棄物のリサイクル率 90%以上」、「水使用量原単位 35m³/t以下」については、目標値を達成しました。

次年度は、生産体制の見直しや業務の効率化を進め、生産性の向上により環境目標を達成すべく取り組みを強化してまいります。

※原単位とは製品トンあたりの使用量・排出量を表す

代表取締役社長

山田潤



環境理念

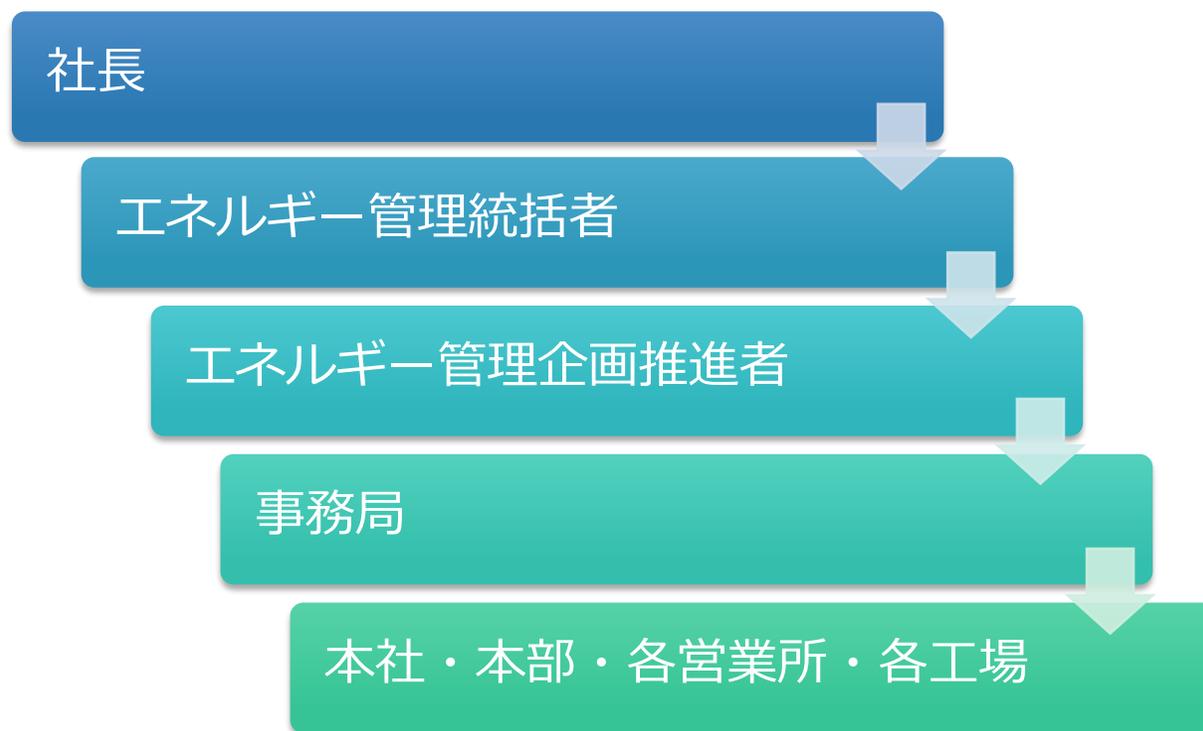
すべての企業活動において環境保全に努め、資源やエネルギーの有効活用など、地球にやさしい取り組みを積極的に行います。

環境方針

- ▶ 法令を順守するとともに、環境マネジメントシステムを構築し、自主的な目標を設定して環境問題に取り組み、持続的な改善に努めます。
- ▶ 全ての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物排出抑制、リサイクルを推進します。
- ▶ 環境に配慮した製品の開発に努めます。
- ▶ 社員一人ひとりの環境教育に努め、環境を大切にする企業風土をつくります。
- ▶ 環境情報を開示し、協力会社、社会とのコミュニケーションを推進します。

環境活動推進体制

当社のエネルギー管理体制は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(省エネ法)に基づき、社長をトップとした組織で運営・管理しています。



会社概要(2020年3月末現在)

- ▶ 会社名 焼津水産化学工業株式会社
YAIZU SUISANKAGAKU INDUSTRY CO.,LTD
- ▶ 本社 〒425-8570 静岡県焼津市小川新町五丁目8番13号
- ▶ 主な事業所 静岡本部、焼津本社
東京営業所、大阪営業所、名古屋営業所、九州営業所
焼津・団地工場、大東工場、掛川工場
- ▶ 創業 1959年
- ▶ 資本金 36億1,700万円
- ▶ 従業員 186名(単体)、218名(連結)



事業概要(2020年3月末現在)

- ▶ 天然調味料、機能性食品の製造・販売
- ▶ 水産物事業、その他食品の製造・販売

当社は1959年に、魚の残渣から飼料・肥料の製造および肝油製造を目的に設立されました。まもなくエキス調味料の製造に方針を転換、天然調味料や乾燥食品へと製品の幅を広げていきました。

1980年以降には機能性素材の開発を本格的に開始、当時、肥料化するしか用途のなかったカニ殻からキチン、キトサンを精製し、販売を始めました。これを出発点にキチンオリゴ糖、N-アセチルグルコサミンを製造、この技術を活かして海洋性のアンセリン、コラーゲンなどの機能性新素材を世に送り出しています。





冷凍食品
Frozen foods



そばつゆ・めんつゆ
Soup stock for noodles



ドレッシング
Salad dressings



機能的飲料
Nutritious drinks



肥料
fertilizer



サプリメント
Dietary supplements



化粧品
Cosmetics

01 液体調味料 Liquid Seasonings

- 魚介エキス
 - 鰹節・昆布エキス
 - 煮干エキス
 - カニ・エビエキス
- 畜肉・野菜エキス
 - チキンエキス
 - ポークエキス
 - 野菜エキス
 - 椎茸エキス
- 調味オイル
 - 魚介オイル
 - 香味野菜オイル

03 機能的素材 Functional Materials

- N-アセチルグルコサミン
- アンセリン
- キチン
- キチンオリゴ糖
- キトサン
- キトサンオリゴ糖
- グルコサミン
- フィッシュコラーゲン
- コンドロイチン硫酸
- フコイダン
- チアフラビン

04 B to C Business to Consumer

- 食品
- 化粧品
- 農業用資材
- トイレットリ



即席麺
Instant noodles



外食産業
Restaurants



風味調味料
Powdered soup stock

02 粉体調味料 Powdered Seasonings

- エキスパウダー
 - 魚介エキスパウダー
 - 畜肉エキスパウダー
 - 粉末醤油
- 果汁パウダー
 - オレンジ
 - ストロベリー
 - バナナ
- 節類粉末
 - 鰹節
 - 煮干
- 乾燥具材
 - 味付鰹節
 - 乾燥海産物
 - 乾燥農産物
- 調味顆粒
 - 低塩調味料
 - コンソメ
 - だし顆粒



カニかまぼこ
Imitation crab



スイーツ
Sweets



スナック
Snacks



お茶漬け
Ochazuke
(Rice with green tea)



ふりかけ
Furikake
(Seasoning mix for rice)

国内の食品メーカーをはじめ、健康・医療・美容関連の企業が、当社の調味料や機能的素材を原材料に配合してさまざまな商品を製造し、市場に送り出しています。

このイラストは、その商品市場のアウトラインです。

このように当社の液体調味料や乾燥食品からは、だしの素、めん類のつゆ、即席めん、冷凍食品、スイーツ類、スナック菓子など、実に幅広い商品が生まれます。

機能的素材からは各種サプリメントや機能的飲料、化粧品などが作られています。

2001年には東京証券取引所 市場第1部へ上場、2019年3月には創立60周年を迎えました。2002年には、国際的な品質マネジメントシステム認証であるISO9001を全社で取得しています。顧客満足の上昇のため、当社では継続して、品質向上に取り組んでいます。2018年には主力の掛川工場にて国際的な食品安全システム認証であるFSSC22000を取得し、更なる顧客満足と食品安全の確保に注力しています。

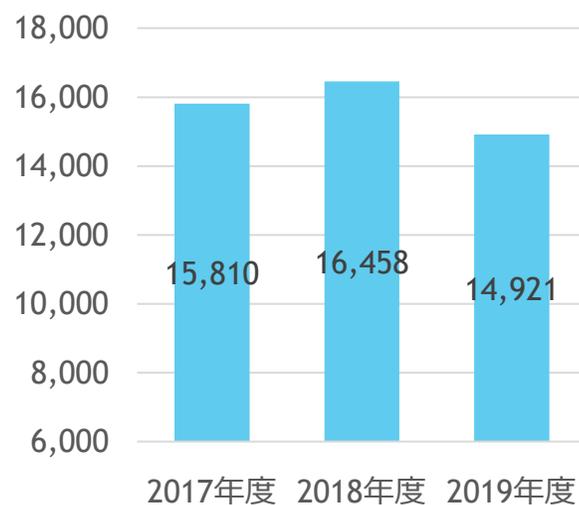
現在、魚介類を原料とする天然調味料のリーディングカンパニーであり、健康や美容に関わる機能性素材の研究・製造でも高い評価を得ています。当社は研究開発型企業としても道を更に一段と力強く前進します。

財務報告

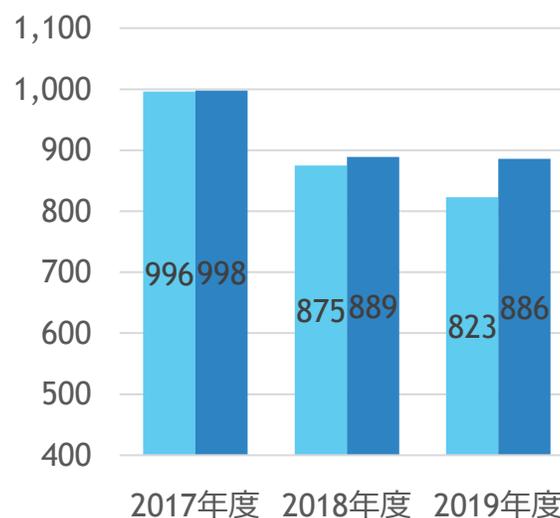
損益概要(2017年度～2019年度)

※単位は百万円

連結売上高

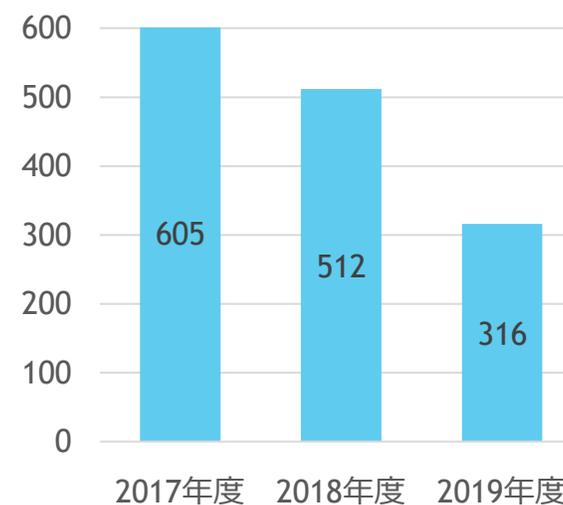


連結営業利益 連結経常利益



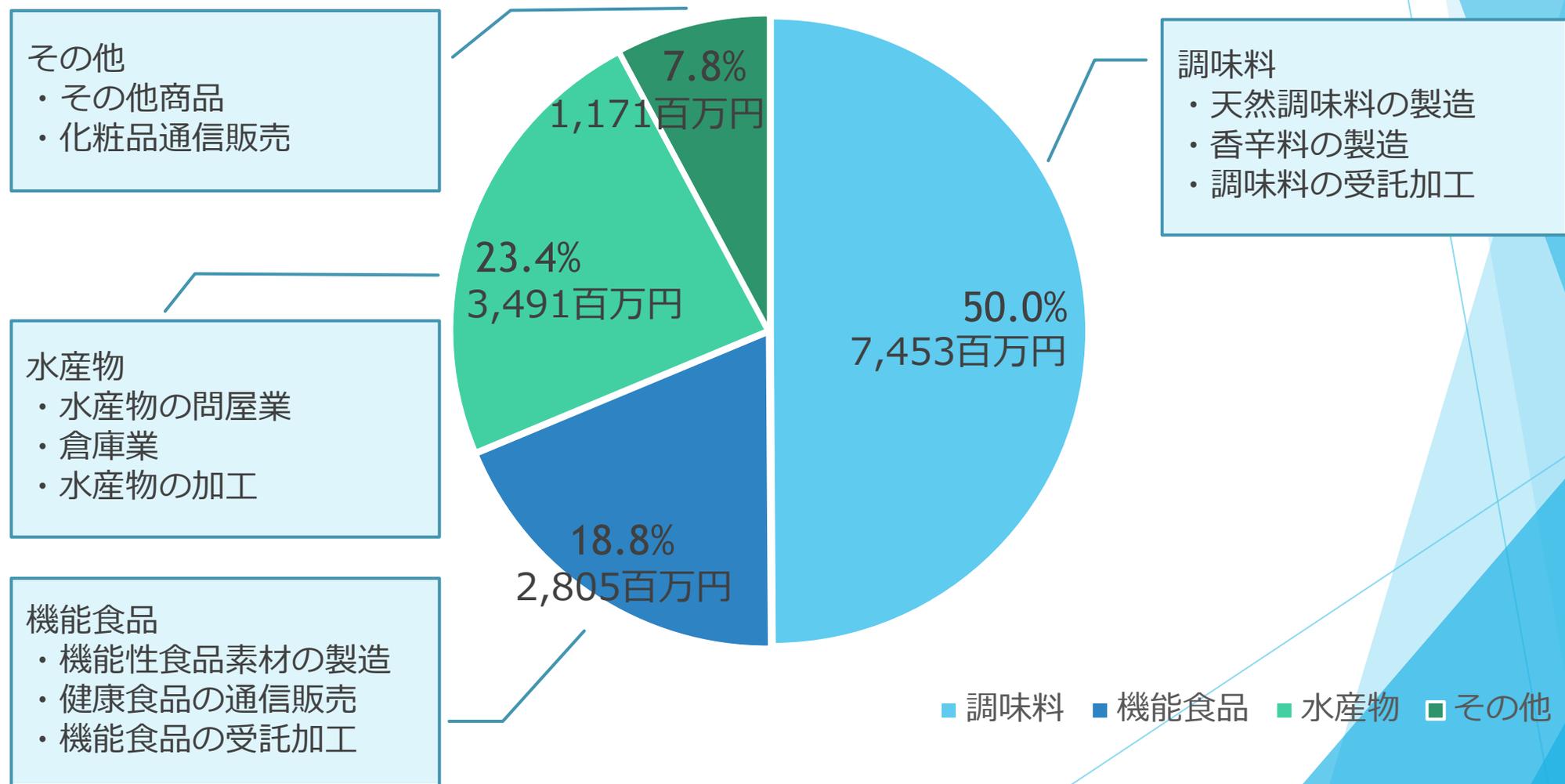
■ 連結営業利益 ■ 連結経常利益

当期純利益



財務報告

セグメント別売上高(2019年度)



工場周辺の環境に対する 取り組み

当社の掛川工場、大東工場の2工場では、工場敷地の境界で定期的に臭い、騒音、振動の測定をしています。騒音・振動の測定結果については、掛川市に報告しており、2019年度は問題のないことが確認されています。

▶ ばい煙測定 <外部業者に委託>

大気汚染防止法に基づき、年2回実施しています。
当社は全ての工場で、ボイラー燃料を重油からLNGへ転換しており、硫黄酸化物の排出量がほぼゼロとなりました。

▶ 騒音・振動調査

騒音・振動規制法に基づき、年2回実施しています。
検査結果は市役所に提出しています。

▶ 臭気測定 <外部業者に委託>

掛川市との協定に基づき、年1回実施しています。



▶ 排水浄化の取り組み

当社は全工場で、年間約25万m³の水を排出しています。そのうち、焼津・団地工場(焼津市)は、共同の排水処理施設に処理を委託していますが、大東工場(掛川市)、掛川工場(掛川市)には自社の設備で排水を浄化して河川に放流しています。

当社の処理施設では、有機物を微生物によって分解する「活性汚泥法」によって約2日間かけて浄化しています。「活性汚泥法」は有機物を分解する微生物を活性化することが重要です。

大東工場の排水処理施設では、空気を微細な穴に通すことで細かい泡を作る「超微細気泡散気装置」を使い、排水の中の酸素量を増やすことで微生物を活性化し、浄化効果を高めています。

また、牡蠣の殻を使って浄化するシステムも取り入れています。これは、微生物が牡蠣の殻にある細かい穴に棲みつきやすい性質を利用したものです。

掛川工場の排水処理施設では、臭気対策として処理場全体をコンクリートで覆っています。さらに、調整層、曝気槽の一部は暗渠構造となっており、臭気の大部分を抑えています。

浄化された水は、日々担当者が状態を確認して放流しており、月1回はpH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、SS(浮遊物質)、大腸菌群など6項目を法的な基準に応じて、外部機関に委託し、放流水検査を行っています。さらに、年に1回は掛川市協定に基づき、外部機関に委託し、43項目の検査を実施しています。

浄化処理で発生する余分な汚泥については、協力業者に委託して肥料化し、自然のサイクルに戻しています。



掛川工場排水処理設備



大東工場排水処理設備

地球温暖化防止への取り組み

▶ 1.工場での取り組み

- ・ガソリンフォークリフトの廃止、さらにLPガスリフトから充電式リフトへ転換を行っています。2020年3月末時点で、全29台中28台が充電式リフトとなっています。

▶ 2.オフィスでの取り組み

- ・オフィスにおける省エネルギーを一層強化するために、2019年度は5月から10月までクールビズを、11月から3月までウォームビズを実施しました。また、各事業所での休憩時間の照明OFFを推奨し、電力の削減に努めています。

▶ 3.営業活動での取り組み

- ・低燃費、低排出ガスのエコカー導入を積極的に進めています。2020年3月末時点では、乗用車30台のうち、23台がハイブリット車、3台が低燃費タイプの軽自動車です。

環境コミュニケーション・CSR活動報告

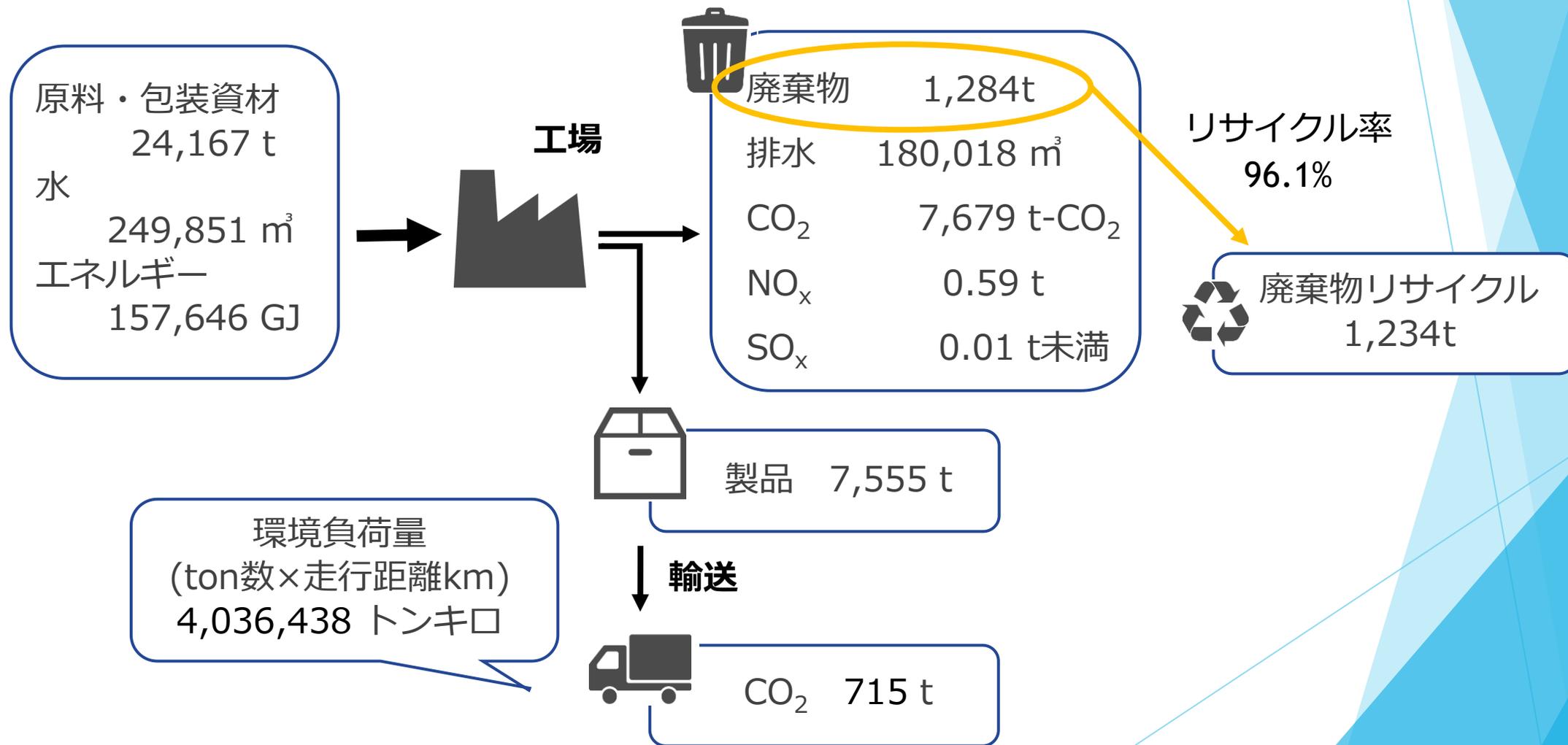
- ① 本社のある焼津市で、定期的に地域清掃活動（焼津の海岸）を行っています。
2019年度は11月に1回実施し、20名を超える社員が参加しました。



- ② 本社のある焼津市小川地区の学童保育へ2020年3月に飲料を提供しました。



工場における物質とエネルギーの流れ



環境目標および実績

2019年度は、当社製品の不正表示対応に伴う生産が増加したため、CO₂排出量、排水量、エネルギー使用量が増加しました。

2019年度に設定しました環境目標「CO₂排出量原単位 前年比1%削減」は達成できませんでしたが、「廃棄物のリサイクル率 90%以上」、「水使用量原単位 35m³/t以下」については達成となりました。

※ 原単位とは製品トンあたりの使用量・排出量を表す

環境目標および実績

環境目標 1 : CO₂排出量原単位 前年比1%削減



CO₂排出量は製品の生産量増加に伴い、エネルギー使用量が増加し、前年と比較し41t-CO₂(0.5%)増加、7,679t-CO₂となりました。

原単位については、不正表示対応に伴う非効率な生産が増加し、CO₂排出量原単位は前年と比較し、0.02t-CO₂(2.0%)増加、1.02t-CO₂となりました。

前年比1%削減という2019年度の環境目標は達成できませんでした。

環境目標および実績

環境目標2： 廃棄物のリサイクル率90%以上

2019年度は焼却ゴミ（鮭頭）の大量廃棄があったためリサイクル率が低下しました。前年と比較し、リサイクル率は1.1%減少の96.1%となりましたが、環境目標である90%以上は達成となりました。

環境目標3： 水使用原単位 35m³/t以下

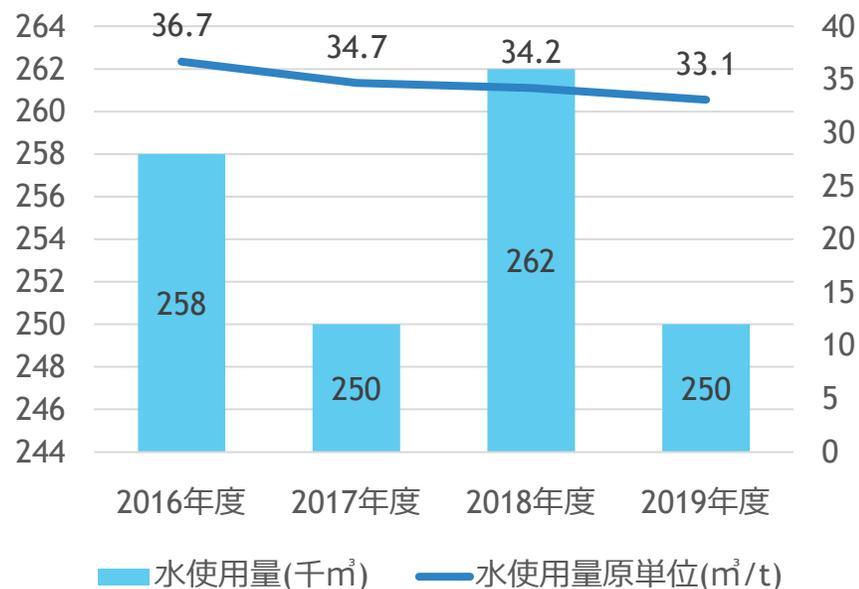
2019年度の水使用原単位は、機械装置の洗浄方法改善により水使用量が削減され、前年と比較し1.1m³/t(3.4%)減少し、33.1m³/tとなり、環境目標は達成となりました。

2020年度の環境目標

1. CO2排出量原単位 前年比1%削減
2. 廃棄物リサイクル率90%以上
3. 水使用原単位 35m³/t以下

その他の環境負荷データの推移

水使用量



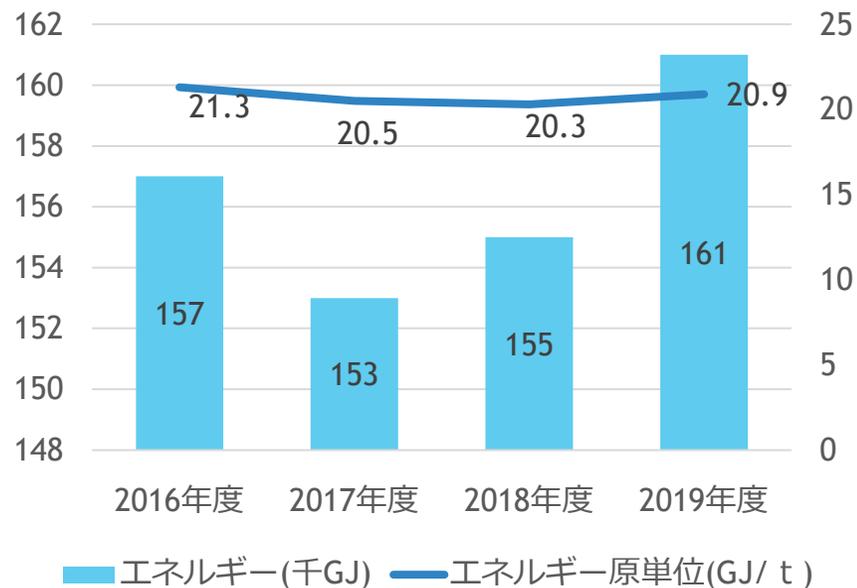
水使用量は、機械装置の洗浄方法改善により削減され、前年と比較し12千m³(4.6%)減少し、250千m³となりました。水使用量原単位についても同様に、1.1m³/t(3.4%)減少し、33.1m³/tとなりました。なお、2019年度の目標のひとつとして水使用量原単位35m³/t以下を掲げており、達成となりました。

排水量



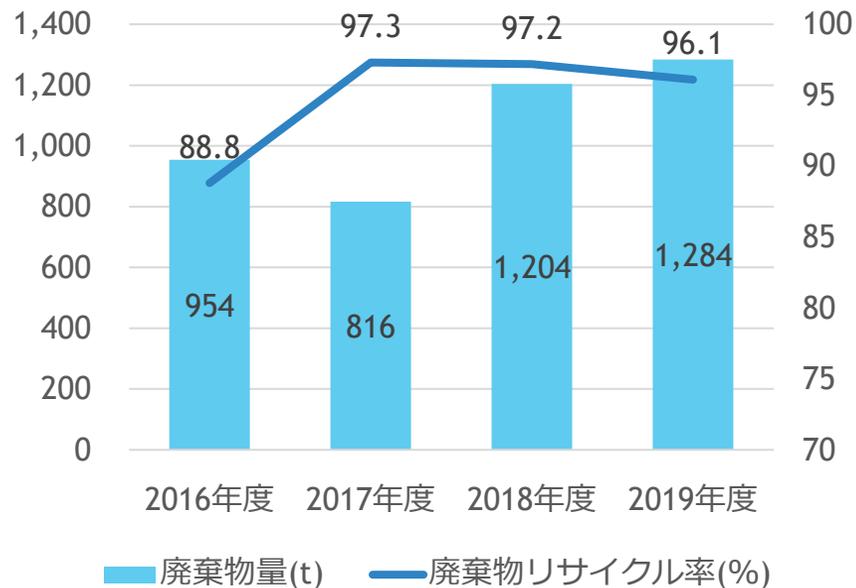
排水量は、不正表示対応に伴う製品生産量の増加により、前年と比較し7千m³(4.0%)増加し、180m³となりました。排水量原単位についても同様に、非効率な生産の増加に伴い、1.2m³/t(5.4%)増加の23.8m³/tとなりました。

エネルギー使用量



エネルギー使用量は、不正表示対応に伴う製品生産量の増加により、前年と比較し6千GJ(3.9%)増加の161千GJとなりました。原単位についても同様に、非効率な生産の増加に伴い、前年と比較して0.6GJ/t(2.8%)増の20.9GJ/tとなりました。

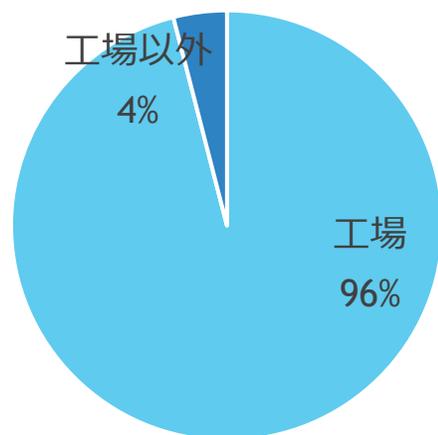
廃棄物量および 廃棄物リサイクル率



廃棄物量は、焼却ゴミ（鮭頭）の大量廃棄により、80t(6.6%)増加し、1,284tとなりました。そのうち96.1%の1,234tがリサイクルされています。大量廃棄物の増加によりリサイクル率が減少しています。環境目標の一つとして廃棄物リサイクル率90%以上を掲げており、達成となりました。

当社事業所のエネルギー使用量

全事業所のエネルギー使用量



- ▶ 当社全事業所の2019年度のエネルギー使用量は160千GJで、その約96%を工場で使用しています。
- ▶ 製品の生産量増加に伴い、工場でのエネルギー使用量が2.6%増加しました。

※原単位とは、製品トンあたりの
使用量・排出量を表す

(千GJ) エネルギー使用量の推移



環境関連法規への違反・訴訟の有無

2019年度において、環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係当局による違反の指摘および訴訟は過去3年間ありませんでした。

	2017年度	2018年度	2019年度
環境に関する法令違反	なし	なし	なし
環境に関する訴訟・罰金等	なし	なし	なし



焼津水産化学工業株式会社

静岡県静岡市駿河区南町11-1 6F

TEL : 054-202-6030

FAX : 054-202-6031

本環境報告書は2022年1月31日に発行しました。
当社ホームページから環境報告書PDFを
ダウンロードできます。

URL : <https://www.yskf.jp/company/csr.html>